



大空にはばたくコウノトリ:兵庫県立コウノトリの郷公園 (本文中に関連記事があります)

## 目次 / contents

### 人・まち・地域…………… 2

- ・市町村合併後の地域経営～「地域ガバナンス」と「地域振興」をキーワードとして / 松本明
- ・第3回コウノトリ未来・国際かいぎ  
「人と自然が共生する持続可能な地域づくり」 / 森岡武

### きんきょう…………… 6

- ・私たちは「あの事故」から何を学ぶべきなのか / 坂井信行
- ・ダイナミック・東アジア / 三輪泰司
- ・出石川ジュニアリバーズ発進! / 吉田久視子
- ・尼崎21世紀の森づくり「尼崎エコ・産業フォーラム」が開催されました / 岡本壮平
- ・金沢・文化と景観のまちづくりの報告 / 絹原一寛
- ・知的障害者グループホーム「悠々」～都心の真ん中のグループホーム～ / 大河内雅司
- ・“けいはんな発・まちブランド” 発車オーライ! / 山本昌彰
- ・所員一言メッセージ～その2

### うまいもの通信…………… 15

- ・秋の味覚を「田ごと」で楽しむ / 高倉うまいもん隊

### まちかど…………… 16

- ・優れものの商業開発・名古屋港イタリア村 / 尾関利勝



ひと・まち・地域

市町村合併後の地域経営  
「地域ガバナンス」と「地域  
振興」をキーワードとして  
京都事務所／松本 明

### 合併自治体の姿

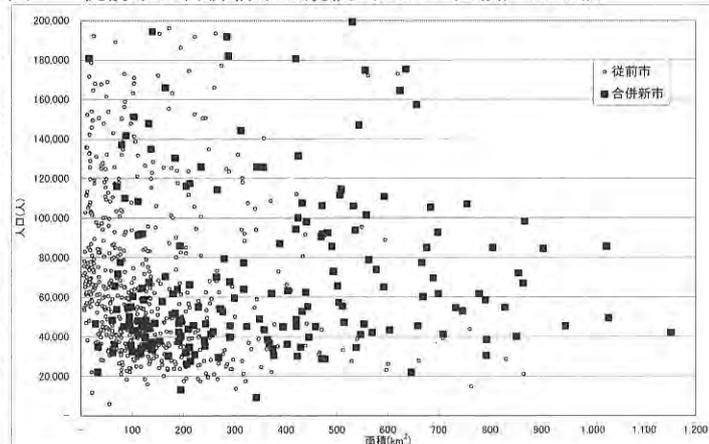
合併特例法の期限である平成 17 年 3 月末を大きな節目として、「平成の大合併」が急速なスピードで進みました。平成 11 年の合併特例法改正以前に 3,232 あった市町村は、平成 18 年 3 月末には 1,822 (約 56%) にまで減少することが確定しています。

終盤には数多くの合併協議が頓挫しましたが、期限内の合併に向けて枠組みを慌ただしく再設定し、滑り込み合併を果たした地域も少なくありません。地方交付税の削減に伴って地方財政が一気に厳しさを増すなか、自治体の危機意識が高まり、最終局面での慌ただしい取り組みの増加がもたらされたと考えられます。

しかし、ここで留意すべきは、合併プロセスのなかで、合併後の地域経営のビジョンとそれを実現するための方法が必ずしも鮮明となっていない点です。新市名称や事務所位置など、政治的バランスと住民感情に左右される事項をはじめ、膨大な協定項目の調整や、新市建設計画における施策・事業の整理などを限られた期間内に平行して進めざるを得なかったため、合併後の地域経営戦略を先送りにした地域が少なくありません。従って、合併後の地域経営をどのように進めるかは、目下合併自治体の焦眉の課題となっています。

ところで、今回の合併の大きな特徴として、小規模町村を中心とした過疎地や中山間地域を含む合併が多いという点を指摘できます。こうした地域では、合併に伴い面積が著しく拡大し、従来の都市イメージとはかけ離れた、密度が希薄で分散的な「都市」が誕生します(図 1)。また、それらの多くでは、過疎問題など地域の活性化が切実な課題となっています。従って、こうした合併自治体の地域経営戦略においては、広域化した都市域をマネジメントする仕組みと地域振興を支える仕組みを組み込むことが求められています。

図 1 従前市と合併新市の規模(人口・面積)の比較



注) 従前市は平成 12 年国勢調査時点の市。合併新市は平成 17 年 3 月 7 日現在総務大臣告示済の新市。人口及び面積は平成 12 年国勢調査による。人口 20 万人未満、面積 1200km<sup>2</sup>未満のもののみ表示。

### 合併後の地域経営モデル

市町村合併後の地域経営のあり方を考える際の視点として、「地域ガバナンス」と「地域振興」の 2 つをキーワードとして設定することができると考えられます。合併後の広域化した都市域を的確に経営するためには、都市全体と地域ごとのガバナンスシステムを構築し、住民と行政の協働による地域振興を効果的に進める仕組みづくりが必要といえます。

こうした視点から合併に関する取組事例の調査※を行ったところ、全国各地で個性的で意欲的な取り組みが始められている一方で、そのあり方は一様ではなく、スタート段階では力点が異なること、したがって、自治体の置かれている状況や課題に応じた適切なシステムを構築する必要があることがわかりました。

その際の切り口として、図 2 に示す「目的軸」と「広がり軸」の二軸による四つの象限を設定して地域経営タイプをモデル化して捉えることが、問題整理や方向検討の上で有効であると考えました。

モデルの目的に関する「目的軸」においては、地域ガバナンスシステムの構築に力点を置くか、地域

振興のテーマ展開に力点を置くかというベクトルを設定できます。

一方、「広がり軸」は、対象とするエリアの広がりに関する軸線です。この軸においては、新市町全体の一体性を高めることに力点を置くか、従来のコミュニティ（とりわけ合併前市町村）の継承・振興に力点を置くかというベクトルが設定できます。

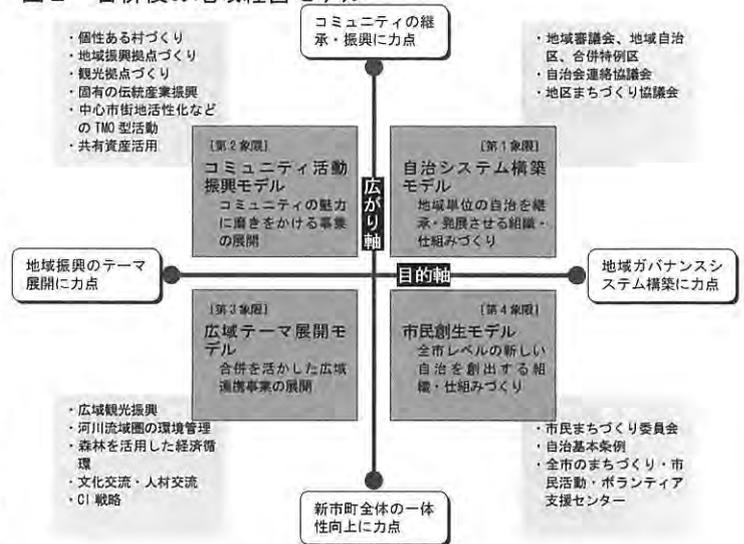
このモデルに従えば、例えば法制度に基づく地域審議会、地域自治区、合併特例区は、主に合併前市町村の自治の継承に力点を置いたものであり、第1象限「自治システム構築モデル」に属するシステムであるということが出来ます。また、旧来のコミュニティの特色あるまちおこし等の活動を継承・振興する取り組みは第2象限「コミュニティ活動振興モデル」に属するといえるでしょう。一方、広域化に伴うメリットを活かすため、地域の物的・人的資源を活かした広域的テーマ展開に関する仕組みは第3象限「広域テーマ展開モデル」に属します。さらに、合併を通じて従来別々の自治体の構成員であった住民を新市の「市民」として創生していく取り組みは第4象限「市民創生モデル」と呼ぶことが出来るでしょう。

もちろん、これらのモデルは相互背反的なものではなく、時間軸の中で地域経営の力点がある象限から別の象限へと螺旋状に変化・進化していくべきものであり、自治体の特性を踏まえ、スタートアップ段階から中期、長期の展望をにらんで、そのプログラムを設計することが重要と考えられます。

### 戦略的な地域経営へ

合併した自治体の多くでは、目下、各種の計画策定が並行してスタートしています。なかでもその根幹となる総合計画は、都市の基本的な政策と施策・事業を網羅するものですが、新市建設計画をそのままぞって構成される場合が多いと思われます。しかし、新市建設計画が合併関係市町村と住民の基本

図2 合併後の地域経営モデル



合意ペーパーであるとするならば、総合計画には、それを踏まえつつ、新たな「都市」ビジョンを具体化するための自治体経営戦略としての役割を果たすことが求められます。

したがって、各地の取り組み事例における地域経営のポイントや、この座標軸モデルを参考にしつつ、どのような地域経営スタイルを目指すか、そしてどのようなステップを経て都市としての一体性を獲得していくかといった時間軸の視点を計画に盛り込むことが重要であろうと考えます。

本報告は、当社と株式会社計画情報研究所が平成16年度NIRA助成研究として実施した同名の共同研究報告書をもとに、筆者が執筆し、「NIRA政策研究」(Vol.18、No.9、総合研究開発機構、平成17年9月発行)に掲載された原稿に加筆・修正を加えたものです。  
※近畿圏及び北陸圏を対象とした合併協議会及び自治体アンケート調査と、合併済及び予定の5市(兵庫県篠山市、京都府京丹後市、滋賀県東近江市、富山県富山市、石川県加賀市)を対象としたケーススタディーを実施し、合併後の地域ガバナンスと地域振興のシステムについて把握しました。



第3回コウノトリ未来・国際かいぎ  
「人と自然が共生する  
持続可能な地域づくり」  
大阪事務所／森岡 武

### いざ！豊岡市へ

9月24日（土）・25日（日）、兵庫県豊岡市で開催された第3回コウノトリ未来・国際かいぎ「人と自然が共生する持続可能な地域づくり」に参加しました。

私ごとですが、入社以来、「コウノトリ」とは縁があり、グランドビジョンなる集落レベルのマスタープランからコウノトリ文化館などの建築設計まで、最近では、昨年度『豊岡市環境経済戦略』策定のお手伝いをさせていただきました。

それだけにコウノトリの自然放鳥に大きな期待と不安を抱いて一路豊岡市へ。

### コウノトリ自然放鳥へ

初日、午前中の全体会のあと、シャトルバスで自然放鳥の現地“コウノトリの郷公園”へ。移動中、「うまく飛べるだろうか?」、「箱から出てこなかったらどうしよう?」など、手前勝手な心配事が頭の中を駆け巡っていました。

保護活動が始まってから50年、人工飼育が始まってから40年、現場に携わってきた関係者の皆様は想像以上のドキドキだったと察します。

### コウノトリ大空へ

現地に到着すると黒山のような人だかり。人の多さに驚きはしないだろうかという心配を他所に、驚

く暇もなく箱が開くと同時に一気に大空へ舞い上がりました。羽を広げると2メートルにもなる大型鳥は、その羽に空気を蓄えると、羽ばたきも少なく一気に上空へと。初めてみるその雄姿は「感動」そのものでした。ホッとしたのも束の間、これからが本番!、餌場は? 寝床は?、コウノトリも住めるまちづくりって?、市民に受け入れられるの?など次なる展開が待っています。

### 次なる展開へ

コウノトリの自然放鳥の興奮冷めやらぬ2日目は、午前中4つの分科会に分かれ、午後から各分科会の報告を受けての全体会という流れです。

#### 第1分科会:

「コウノトリの野生復帰を検証する」  
- 生息地外保全から再び生息地内保全へ -

#### 第2分科会:

「生きものと共生する農業」  
- 安全安心なお米づくり -

#### 第3分科会:

「環境と経済が共鳴するまちづくり」

#### 第4分科会:

「世界へ、未来へ、次世代へ」  
- コウノトリ子ども会議 -

詳細は開催報告を待つとして、ここでは私の参加した第3分科会の内容を中心にお話します。

### 「環境と経済が共鳴するまちづくり」へ

私は昨年度、『豊岡市環境経済戦略』の策定チームに参画しました。途中、台風23号の被害に見舞われ頓挫しそうになったこのチームも、台風から「多くの気づき」、「環境を考える契機」を得たことで、復旧作業の最中に戦略会議を再開しました。この分科会はこの戦略会議のメンバーを中心に、環境先進都市ドイツからの発表者を交えて企画されたものです。

第3分科会のテーマは、次のとおりです。



自然放鳥式典の様（一番右、秋篠宮殿下、同妃、両殿下）



黒山の人だかり



コウノトリ大空に



第3分科会の模様

環境への取り組みが経済効果を生み、さらにその経済効果が環境をより一層良くしていく道筋について成功事例の紹介をまじえて、『環境と経済が共鳴するまち』をどのように創造していくのかを探る。

分かったような分からないようなこのテーマは、「脈々と流れている地域の知恵を読み直そう」、「人の創造的な暮らし、自然との関わりを取り戻そう」という現代人の暮らしぶりを見直す試みに他なりません。そこに「環境への気づかい」が自然発生し、その気づかいで経済（コミュニティ経済から市場経済まで）が活気づいたらいいなあ～という内容かな？

### “幸の鳥” にしないと・・・

コウノトリは20世紀の暮らしを省み、21世紀の暮らしを創造するヒントを与えてくれる“幸の鳥”なのです。

### “光の鳥” な発表

分科会の発表者の今泉みね子さんからはドイツで取り組まれている市民出資の市民発電所、小学校での太陽光発電による売電など、市民レベルの環境活動が経済効果を生み出している報告がありました。

中田裕美子さんからは『豊岡市環境経済戦略』の策定報告のあと、「豊岡市にとっておきの人」というテーマで、地域に光をあてている独自の取り組みが紹介されました。

フランツ・アルトさんからは、石油エネルギーから自然エネルギーへの切り替えが光速で進展しているという興味深い紹介がありました。（ドイツでは概ね8割まで切り替わっているとのこと）

小浦久子さんからは、「風土性の発見」、「パッシブコントロール」の重要性の提起が、小西孝則さんからは「異業種間の仲人、マッチングで新たなものづくりの光が見えてきた」事例紹介がありました。

### “行の執り” から “行のっとり” へ

分科会終了後、自然放鳥されたコウノトリの追跡を担っているパークボランティアの方々から、前日に放鳥されたコウノトリの所在について「1羽行方不明で心配しましたが、全て郷公園内のゲージに戻りました。」という報告がありました。会場からは笑いがおきましたが、これは関係者にとって「想定範囲内」の出来事です。まだまだ、行政のがんばりが必要であり、参画と協働による地域づくりの入り口に立ったということが確認できた一瞬でした。分科会の発表にもあった市民レベルの、環境と折り合いを付けた、自立した持続的な暮らしが行政の取り組みをのっとり（環境と経済が共鳴する）日の到来が望まれます。

### “巧の鳥” な人たちのネットワークづくり

最後に、今、豊岡市では市民環境大学という公開講座が継続中です。台風23号により気づかされた「地域に根ざした暮らし」を見直そうというテーマで、地域の巧みに光をあてた面白い内容です。

落ちた土壁の土を練り直して住宅を復旧させたカリスマ左官職人（久住章さん）、水に浸かった家具を乾燥させ、きれいに泥を落とすことで復旧させた無垢材の家具職人（草分みのるさん）など、職人の環境との関わり方（水に浸かることを前提にしたものづくり）、素材からみる地域環境（地域内の材料でものづくりをすれば地域内の材料で復旧できる）、など、見識深く、それでいて難しくない講義が聴ける優れたものです。職人ならではの創造的な工夫に触れることは、日常の暮らしに潤いを与えることにつながります。興味のある方は是非、豊岡市のホームページにアクセスを！

この件については、追ってご報告します。



私たちは「あの事故」から何を学ぶべきなのか

大阪事務所／坂井 信行

ドキュメント

その日の朝、私はいつものように子どもを保育園に送り届けた後、西宮名塩駅8時52分発の普通電車に乗って会社に向かいました。宝塚駅で9時4分発の東西線経由同志社前行き快速電車に乗り換えました。3両目に乗り込み進行方向に向かって右側最前部に席を確保することができました。

中山寺駅、川西池田駅と停車し、伊丹駅に到着。思うまもなく電車は逆方向に進みました。「停車位置を過ぎたようだ」特に気にもとめませんでした。定刻を少し遅れて伊丹駅を発車。この後この電車が次の尼崎駅に到着することはなかったのです。

伊丹駅を発車後、しばらくたつと座席に座って音楽を聴き、本を読んでいた私にもわかるほど小刻みな揺れとガタゴトという音が激しくなりました。「えらいスピード出してるな」突然これまで経験したことがない大きな揺れを感じ、立っている人が倒れるほどよろめきました。「えっ！」と思って右側の窓を見ると信じられない光景が。2両目の車両が大きく左に傾いていったのです。「スピードの出し過ぎでカーブが曲がりきれなかったのだ！」その瞬間、私は何が起ころうとしていたのか理解しました。「これは脱線する！」すぐに前を向き身構えました。ガタガタガタガタ、ジェットコースターに乗っ

ているような激しい音と振動が。記憶はここで途切れました。

気がつくと青いシートの上に横たわっていました。妻と会社に電話をしました。何をしゃべったかは覚えていません。とにかく連絡しなければと思ったのです。断片的な記憶しかありません。いつのまに運ばれたのか工場のような建物の中で寝かされています。警察の人に名前と住所、電話番号を尋ねられました。朦朧としながらもなんとか答えることができました。まもなく私は電車のシートを担架がわりにワゴン車で病院に運ばれました。

少し意識がはっきりしてきました。病院のベッドの上にあります。かたわらには妻が、そして何人かの知人や会社の人たちが来てくれていました。混乱のうちに運命の一日は終わりました。

貴重な体験を無駄にしないために

私は4月25日に発生したJR福知山線列車脱線事故に乘客として遭遇し重傷を負いました。3か月の入院と1か月の自宅療養の期間を経て、9月から徐々にではありますが仕事にも復帰することができました。この間、多くの方々にご迷惑とご心配をおかけいたしました。少しずつ日常を取り戻しつつあることをご報告いたします。

さて、今回は乗客をはじめ多くの人々が事故を「体験」することになりました。事故後、この体験を共有する人々が集まり交流する場がもたれはじめています。最初は誰かと話をするだけでも心が癒されます。これまで全く面識がなかった人々の間に不思議

な仲間意識が芽生えてきました。私はこのつながりを大切にしていきたいと考えています。

事故の直接の原因がスピードの出し過ぎであることは明白ですが、その背景には時間に追われて余裕のない生活を送る私たちの社会があります。この事故はいったい何だったのか。私たちは何を学ぶべきなのか。直接は電車の安全の重要性です。でも本当に気づくべきは事故を引き起こすことになった社会のありようではないのでしょうか。私は、人間らしく生きられる社会の実現をめざしていくことをこれからの目標に決めました。そして、事故の貴重な体験を共有するさまざまな立場の人と交わることによって、自分なりの答えを模索していきたいと考えています。

ダイナミック・東アジア

取締役会長／三輪 泰司

9月5日から8日まで、韓国へ行ってきました。台風14号が日本列島を襲っている間でした。被災地の皆様には申し訳ないですが、ソウルはずっと爽やかなお天気に恵まれていました。お天気以上に、多くの方々のご好意に恵まれ、短期間におおむね目的を達することができました。

川が蘇った

ちょうど6日が通水の日でした。今、目覚ましい変貌を遂げつつあるソウルで、象徴的な事件は、僅か2年余で、5.9kmにわたるチョンゲチョン(清溪川)の復元事業をやったのけたことでしょう。

写真で従前の姿と完成後のイメージを見ますと確かに驚きです。“世界一歩きたくない街”ソウルを歩行者に取り戻そうと運動していた市民も、ソウル市はほんとうに覆蓋や高速道路を壊すのだろうか、半信半疑だったそうです。チョンゲチョンには日本の河川、環境、デザイン等の調査団が訪れています。チョンゲチョン・ビューという新語が出来たように、新しいオフィスやフード店が進出し、日本からの観光ツアーの人気スポットのひとつになっています。環境面ではチョンゲチョン周辺の都市気温が1～2℃下がったという報告があります。10月に竣工を迎える直前の様子をみました。竣工に併せ、ソウルで世界市長会議が開かれるということでした。

今回の目的は2つ。一つは、京都造形芸術大学大学院の金應周君の学位論文が大詰めに入り、1997年に制定されたソウル特別市の「歩行条例」と歩行環境基本計画の実施状況と市民運動をフォローし、研究を補強すること。もう一つは、バス交通体系改編の状況と、それを支えた研究と計画を調べること。

これらはチョンゲチョン復元事業とも関係しています。

#### バスは生まれ変わった

ソウルの交通事情については、



チョンゲチョン復元前（ソウル市資料より）

2003年3月に大阪事務所の澤田英郎君が調査に行き、ソウル市政開発研究院（SDI）にもヒアリングし、本誌107号に報告しています。

昨年7月、新しいバス交通システムが実施されました。伝えられるところでは、幹線道路の中央にバス専用レーンを設けたこと、バスの働き方によって車体を4つに色分けしたことなど。これだけなら他にも前例があります。

総合的・抜本的な改革です。その背景の計画思想、研究体制、政策判断を学び、実施後の効果と評価を知りたかったのです。

9月6日、SDIを訪問し、公共交通改編の総指揮をとられた大衆交通研究団長、キム・キョン Chol（金敬喆）博士にお会いしました。

中央走行方式による基幹バスは、20年前1985年4月に名古屋市でも実施されています。当時名古屋事務所に在籍していた内村雄二君（現・福井工業大学）が本誌11号に紹介しています。1991年11月には京都事務所の諸君が追跡調査し、表定速度は14.55km→19.93km（新出来町線・市バス・10.4km）と37%アップ。利用客数も増加に転じたと、本誌50号に報告しています。

ソウルでは現在7路線84kmで実施しており、年内には10路線



チョンゲチョン復元後のイメージ（ソウル市資料より）

172kmを計画しています。

ブルーの線で区画されたバス専用レーンは、一般走行部で2車線、停留所部では追い越し車線がプラスされ、停留所ともで4車線分、路側の歩道側には近距離バス車線もあり、道路空間はかなり複雑ですが、きめ細かに設計され、幹線バスの速いこと、ものすごく多いのは壮観です。

キム博士のご説明では、バスの平均表定速度とともに、マイカーの走行速度も10km→20kmに向上。バス利用客数は2003年比で11.0%増加。バス関連事故は実施以後26.9%減少したそうです。

#### 苦闘はつづく

勿論、ソウルでもモータリゼーションとの闘いでは幾多の試行錯誤を重ねてきました。

ソウル市25区は東京都23区と面積、人口ともよく似ています。ソウルの地下鉄は2つの公社の8路線・350km。東京首都圏の282kmより整備されているようですが、鉄道は国鉄・171kmだけで私鉄はゼロ。東京首都圏のJR・887km、私鉄・1,029kmと比べて公共交通全体の整備が遅れ、そのため自動車の交通分担率が高く、道路には500路線・1万台のバス、7万台のタクシー、280万台の自家用車がひしめき、増



中央走行レーンの様子（SDI キム博士の資料より）



## きんきょう

加する事故で市民生活は脅かされていました。

ソウルのバス事業は全て民営（路線68社、コミュニティ150社）です。急増する需要で許可はとり易くなっていますが、利用者の多い“黄金路線”を巡って競争が激しく過密になる一方、利用者の少ない路線は経営が成り立たず、運賃値上げを繰り返し、客の奪い合いや、ストレスから乱暴運転を招き、安全無視とサービス低下で市民の不信と、労働条件の改善を要求する運転手の運動が高まっていました。

バス体系改編は公共交通整備の重要なステップですが、まだまだ課題は残っています。

### ダイナミック・ソウルの秘密

バス体系改編ビジョンのアクション・プログラムとその実施・評価に関しては“学術的”研究報告として発表するつもりですが、政策的ポイントは何処にあるのでしょうか。

第一は、ソフト・システム。公共サービスは、“公”＝行政が責任を負ってその基本を管理する。運営は公営・民営があっても平等。市民がマイカーに頼らなくともよいよう、便利・快適・親切で美しいサービス、効率的経営では互いに共同と競争。このような理念は京都市のバス事業を考える会と共通しています。ソウルが先んじているとみましたのは、路線権を市が握り、法整備に努めるとともに、収益は働きに応じて分配しようと、市・バス会社が「共同収益管理基金」を設立していること。

第二は、それを支えるハード・

システム。ITS（高度道路交通システム）技術によるバス運営管理の開発。具体にはGPS（汎地球測位システム）を駆使したBMS（バス・マネージメント・システム）を構築し、併せてT-MoneyというCPU内蔵型カードを開発。これで、運んだ乗客数・距離を正確にセンターで読みとり、収益を合理的に配分する仕組みが機能します。

GPSによるBMSは、TOPIS Seoulと言って公共交通の管理だけでなく、警察・消防・高速道路など公共の多分野とも繋がり、多機能な新カードは、インターネット、ケータイなどで旅行・買物・イベントなど広範な市民サービスへ進化します。かっこよいデザインのパendant型T-Moneyは、急速に市民に普及していました。

### 政策判断とリーダーシップ

わが国でもタクシーはGPSを活用していますし、GPS搭載のケータイ端末での画像と音声付き観光ガイドは、京都でも実証実験します。これも複数の省庁が関係します。開発と運用にはITソフト・通信、観光・広告などのコンソーシアムを組むことになります。そこで、第三は、実践的研究開発力の存在。キム博士を団長とする「公共交通改編研究支援団」という研究・開発コンソーシアムです。

そして研究委託をした市長のリーダーシップの“形”でしょう。

2002年7月に就任したイ・ミンパク（李明博）市長の「ビジョンソウル2006」3部門20重大项目で、特に力を入れているのが、公共交通改編、チョンゲチョン

復元、DMC（デジタル・メディア・シティ）だそうです。

老朽化していた高速道路、日帝時代に決まった覆蓋の撤去は国民的に支持されるでしょう。韓国でのGPSの研究・開発はものすごく進んでいる。こうした状況をよく読んでいます。

### 行政と市民と

都市づくりは、都市の歴史的・文化的・社会的特性によって創造されるべきです。

京都市で実証実験中のバス・タクシー連携システムは、市民生活の基礎である地域生活圏での歩行行動により接近していると考えています。ソウルとはアプローチが異なります。

街路利用のバス・タクシーは、面型サービス、線路や集電線を要する鉄道・LRTは線型サービス。この原理は普遍で、ソウルでのバスの走行環境と公・民共同体制を整え、輸送量が17,500人/時に達したらLRTへという戦略は参考になります。



SDIで：キム・キョン Chol博士（右）のレクチャーをつける。左は通訳をしているキム・オンジュ君



NGO都市連帯で：協議会を終える事務局長、キム・ウンヒさん（左）と上林研二講師（左）と

キム博士は北京へ飛んでいるそうです。東アジアはダイナミックに動く。ハンゲル・中国語を身に付けないと、と痛感しております。

ソウルでは僅か2年余でやってのけたがための問題もあります。

9月7日、NGO「都市連帯」で、キム・ウンヒ事務局長と意見交換しました。歩行条例改正・第二次歩行環境基本計画への取り組みとともに、市民運動と行政の関係、市民運動団体と地域住民団体（商店街等）との関係等々。これはまた追ってご報告します。

今の関心はブータンに学び、「市民総幸福量」で解くことです。

## 出石川ジュニアリバーズ発進!

大阪事務所／吉田 久視子

### 台風23号の思いがけない影響

昨年10月20日に但馬地方に接近した台風23号による記録的な豪雨は、円山川水系のいたるところで破堤や越水を発生させ、多くの家屋や田畑等が浸水の被害を受けました。地元の方々は、一日も早い復旧を望んでおり、兵庫県豊岡土木事務所では懸命の復旧作業にあたられています。

このような中、1つ、地域の目玉?になる出来事が起こりました。台風によって、上流から多数のオオサンショウウオが流されてきたのです。オオサンショウウオは西日本にしか生息しない貴重な生き物で、国の天然記念物にも指定されている両生類です。出石川には、このオオサ

ンショウウオをはじめ豊かな生き物が生息しているのです。

兵庫県豊岡土木事務所では、これらのオオサンショウウオの実態を調査し、工事期間中、保護池に一時的に避難させ、工事終了後に川に戻す取り組みを行っていく予定になっています。

### 出石川ジュニアリバーズによる観察会

オオサンショウウオは、見た目、さわった感じ、不思議な生態や行動、どれをとってみても子どもたちの興味を惹きつける人気者です。この夏、地元の小学校と兵庫県豊岡土木事務所が一緒になり、「[出石川]ジュニアリバーズと名付けて川の観察会が開催されました。

子どもたちは、網を使って魚を捕まえたり、水の中で泳いだりと大よこび。姫路水族館前館長の栃本先生からオオサンショウウオのお話を聞いたり、川の質問をしたり、みんなで思いっきり川に親しんだ一日になりました。

このイベントのもう一つ大きな特徴は、土木事務所の職員のみなさんが一同参加したという点です。若手の職員が子どもたちの先導役として「のほり」を持って出かけていく姿は生き生きとしていました。

### 川と人、自然と人、人と人を結ぶ「だしけ」ニュース

イベントの様子は地元向け情報紙「だしけ」NEWSとして紹介されています。「だしけ」とは但馬弁で「～だから」という言葉で、接続詞です。このニュースレターが川と人、自然と人、人と人を結びつけかけになってほ



しいという思いを込めて名付けられました。今後、このニュースを継続して発行することで、地元の方がより出石川に関心を持ってもらえるのでは、と思います。

### 復旧から復興へと「出石川・リバーズプロジェクト」

ジュニアリバーズの取り組みはオオサンショウウオの保護を中心に据えながら、出石川の自然環境に関心を深めるとともに、自らが主体となって河川のより良いあり方を考えるリーダーを育て、流域住民の川に対する意識向上を図っていくものです。

出石川では、今後、河川改良復旧工事が進められていきます。復旧工事というハード事業だけではなく、「出石川リバーズ・プロジェクト」と名付けて、地域の川への関わりや知恵の復活も含めた、災害からの「復興」が望まれています。オオサンショウウオをかすがいに、地域の人々が川を見つめなおし、地域力、防災力を向上する「復興」への取り組みとなっていくことが期待されています。



## 尼崎 21 世紀の森づくり「尼崎エコ・産業フォーラム」が開催されました

大阪事務所／岡本 壮平

尼崎 21 世紀の森づくりは、尼崎臨海部 1,000ha を舞台に、市民・事業者・各種団体・行政など多様な主体の参画と協働により「環境創造のまち」をめざす新しいまちづくりの取り組みです。この尼崎 21 世紀の森づくり協議会・産業部会が中心となって、さる 9 月 9 日（金）尼崎中小企業センターにて、「尼崎 21 世紀の森を活かした都市再生」と題して「尼崎エコ・産業フォーラム」が開催されました。市内企業等から 70 名を越える多数の方々にご参加頂き、後の交流会も盛況でした。

まず竹林征雄氏（荏原製作所）を講師に『環境再生による持続可能な地域づくり』と題して基調講演がありました。横浜を舞台に取り組みが進んでいる地域エコ・エネルギーウェブを事例紹介しつつ、「エネルギーの地産地消」という考え方と、それを支えるネットワーク・システム及び推進主体となる企業コンソーシアムのあり方についてご提案がありました。続くパネルディスカッションでは、環境産業に取り組む尼崎市内企業 5 社を交え、吉田登先生（和歌山大学）のコーディネートのもと、環境と産業の共生、尼崎の特性を生かした資源・エネルギーの地域マネジメントなどの重要性について活発な意見が交わされました。

エネルギー産業は関連機器またエンドユーザーまで含めると相当にすそ野が広い産業であり、新たな計画を企図する時には逆にいろいろな企業や技術が必要となるのですが、産業都市尼崎にはそうした蓄積があり、そうした企業が手を結めば「エネルギーウェブ」で環境・都市再生ができるかもしれない…。そんな可能性を少しリアルに感じることができる有意義なフォーラムでした。環境と産業の共生について考える場を提供し、具体的な目標やプロジェクトを企画し、興味関心のある企業のマッチングの場を創出する…産業部会の活躍にこれからも注目したいと思います。



## 金沢・文化と景観のまちづくりの報告

大阪事務所／絹原 一寛

### 金沢のまちづくりをこの目で

金沢は加賀百万石の城下町としての蓄積を活かした積極的な景観形成の取り組みと、文化・芸術を前面に出した取り組み、それらの相乗効果による都市戦略を進めています。しかしながら、本や雑誌ではそうした話を読んでも、実際に現場ではどのような取り組みされているのかを知り

たくて、大阪商工会議所主催の見学会に参加してきました。

### 金沢 21 世紀美術館

金沢 21 世紀美術館は、旧金沢大学教育大学付属学校（小・中・高等学校等）が移転した跡地に建設され、開館 1 年で延べ入場者数が 150 万人を超えるほどの人気です。

移転によってかなりの数の学生がこの地を離れることに対する危機感があったそうで、どのような再開をめぐすべきか、相当議論がなされたようです。その中で、金沢を文化都市にしていきたいという思いから、歴史の蓄積の中に現代美術と斬新なデザインの建築という新しい装置を導入したことが功を奏しました。

館長には、現在金沢市助役でもあり、大阪市立美術館館長も務める箕豊氏を招き、いかに地域に溶け込ませるか、相当ご努力されました。子どもをターゲットにし、市内の全ての小中学校生にこの美術館に来場してもらうよう、熱心に働きかけたというお話が印象的でした。また、地域とのつながりを強く意識し、円状の館内の外縁部はフリースペースとして滞留できる場としており、観光客だけではなく、美術などを学ぶ学生の姿も多く見られました。



金沢 21 世紀美術館

### 金沢市民芸術村

続いて訪れた金沢市民芸術村は、おそらく全国で初めてであろう、24時間年中無休の文化公共施設です。文化はそれを単に鑑賞する人だけではなく、担い手を育てなければならぬ、という思いから、市民が極力自由に文化活動に専念できる環境をつくりあげたのです。運営も市民から選ばれたディレクターによって行われており、価格も文化施設としては他とは比べものにならないほど低料金。しかも、24時間営業なのに職員が常駐しているわけではない、というのも驚きです。波及効果も現れているようで、文化活動を行うための商店が市内に増えているとのこと。

### 金沢市の景観施策

金沢市の歴史的景観の保全やまちなみ誘導の取り組みについても関心があったので、市役所のまちなみ対策課の方にお話をうかがうことができました。

金沢市では、市の景観条例に基づいて、市域を伝統環境保存区域、近代的都市景観創出区域の2つのゾーンに区分し、さらにその区域内を細かく49の区域に分けて、それぞれに景観形成の基準を設定しています。また、主要な眺望点からの景観についても基準を設けるとともに、景



こまちなみ（旧観音町）

観シミュレーションなどのしくみを通じた誘導を図っています。それらを基本としながら、要素別に保全・誘導を図るしくみ（こまちなみ保存条例、用水保全条例、斜面緑地保全条例、寺社風景保全条例、屋外広告物条例など）をあわせ、様々な角度から取り組んでいます。

### 現場を通じた印象

以上の詳しい内容はホームページなどを参照頂ければと思いますが、お話をうかがって感じた個人的な印象を以下に記します。

(1) 文化・景観に対して目に見える経済効果がある

文化・景観で飯が食えるか、とはどこの地域のまちづくりでも言われることですが、金沢では実際にそれが目に見えて現れており、投資や施策に対して市民・事業者の理解が得られやすいのではと感じました。

(2) 古いものと新しいものがバランス良く共存している

兼六園というシンボル（ご本尊）や武家屋敷等のまちなみといった古いものと、一方で片町・堅町や21世紀美術館、JR西側の区画整理のまちなみといった新しいものが共存したまちの印象がありました。歴史的市街地が良く残っているのは、その価値を市民皆が認めながら、一方で新しい機能を補う新市街地があり、上手く連携していることも大きいと思います。

(3) 文化・景観を担う人材がいて、育てている

経済効果が生まれることによって、若い世代も含めた人材がそうした文化・芸術の分野に入っていきやすく、またそれを支える施設などがあり、積極的に育てようとしています。

また、ヒアリングにうかがったまちなみ対策課の方々も、「金沢というまちで変なことをさせられない」といった意識から、窓口での指導業務に熱心に取り組まれています。

駆け足の日程だったのですが、文化・景観のまちづくりの真骨頂が少し垣間見えた？視察でした。

### 知的障害者グループホーム

#### 「悠々」

～都心の真ん中のグループホーム～

大阪事務所／大河内 雅司

### 大阪の都心の真ん中のグループホーム

グループホーム「悠々<sup>ゆうゆう</sup>」は、大阪府中央区森ノ宮駅から徒歩5分という、都心の真ん中に立地する知的障害者のグループホームです。どこにでもある業務ビルのワンフロアを改築して、4つの個室の他に、自立体験室、地域交流・セミナー室を併設しています。

### 相談や生活支援、日中活動の場、居住が一体化

居住者の方は、「障害者生活支援センターいきいき」の相談や「大肢協ヘルプサービス」の生活支援を受けながら、小規模通所授産施設「なにわの宮」で働いています。相談や権利擁護、日常の生活支援、日中活動の場、居



## きんきょう

住といった、生活を支える資源がひとつになって、利用者の生活を支えています。

### 暮らし方の選択肢を広げる自立体験室

障害をもつ人が地域生活を送るスタイルは、家族との同居の他に、グループホーム、一人暮らしなど、さまざまな形態があります。誰もが選択肢の中から自分にあった生活を選び、社会人として責任を担っていくことが求められています。

自立体験室は、生活という経験を積み重ねることにより、どこで暮らすかという自立に向けた自己決定を応援する場となります。

### 障害者と地域をつなぐ地域交流・セミナー室

地域で孤立しがちな障害者には、朝夕の挨拶があつてお互い様の気持ちがある、地域の住民との関係づくりが求められています。

地域交流・セミナー室は、ヘルパーやボランティア研修会その他、将来的には地域の障害者・高齢者向けのセミナーや文化教室を開催するなど、障害者と地域をつなぐ場として期待されています。



都心の業務ビルのグループホーム

### 交通至便な都心で暮らすことの難しさ

都心が見直され、中央区はここ数年人口が増え続けています。一方で、交通至便な都心で普通の生活をしたいという障害者の要望を実現するためには、高いハードルが存在しています。

それは、なにより家賃が高い、4LDK などまとまった居室確保が可能な物件が少ない、オーナーの理解が得にくい、初期投資としてバリアフリーの工事費が必要などです。

### 自立支援法以降の経済面の厳しさ

悠々ではビルのオーナーが、事業主の理事長の後輩だったことから理解が得やすく、家賃設定についても協力的でした。また、作業所や相談の場など、生活を支援する資源が身近にあるなど、都心でグループホームを開設する条件がそろっていたとも言えます。リフォームの費用の1/3は自治体からの補助を得ていますが、それでも初期投資は大きく、厳しい経営となっています(家賃78,000円(共益、食事、水光熱費込み))。

さらに、来年度施行予定の自立支援法では、サービス利用の自己負担が生じます。所得の限



居室



写真(上):自立体験室  
(下):地域交流・セミナー室

られた障害者にとって、金銭面から都心で生活することがより難しくなる可能性があります。

### 無関心を乗り越えて人のつながりづくりを

都心には商店街の空き店舗、空き教室など、可能性をもった場所が存在しています。それらを活用することに加えて、無関心という厳しい現実に向かい、地域の人という資源を味方につけて少しずつでもハードルを越えていきたいものです。

現在、アルパックは中央区のアクションプラン(地域福祉計画)の計画づくりをお手伝いしています。計画づくりには障害者の方が参加され、具体的な事業が提案されました。

提案の実現に向けて、「誰もが安心して住み続けられる都心中央区」をめざして、地元の企業市民である我々も一つの力になりたいと思っています。

グループホーム「悠々」問い合わせ先

(社福) 大阪府肢体不自由者協会

電話: 06-6942-5754

“けいはんな発・まちブランド” 発車オーライ！

大阪事務所／山本 昌彰

ウォーキングのイベントに参加しました

(財)関西文化学術研究都市推進機構等が主催する「けいはんなフィールドミュージアム 2005『学研都市を知ろう けいはんな線を歩こう』」(10月30日(日))に親子で参加させていただきました。

まず、けいはんなプラザ前からスタートして奈良の中登美ヶ丘あたりを經由し、けいはんな線の新しい駅となる「学研北生駒駅」へ。次にここから開通前のけいはんな線の線路を新駅「白庭台駅」まで歩くという全行程約6km、約2時間のコースです。私は奈良市に住んでいますので、実は家のすぐ近所を歩いたわけです。

新たな発見ができました

開通前のけいはんな線を歩くというのが当日のメインイベントですが、それ以外にもいろいろ楽しませていただきました。自宅から近く、普段見慣れているはずの街も、実際に足で歩いて見ると、以外にも「新しい発見」が多く、非常に新鮮に感じられました。



緑が多い学研都市

再発見その1！【誇り】

まず、緑が多く、空気がおいしいこと！！これは学研都市生活者にとって最大の誇りと考えています。車移動だけでは忘れがちなこのすばらしさを改めて実感させていただきました。この中で光台、登美ヶ丘、北大和、白庭台…それぞれ個性のある住宅が建ち並び、小さな子の三輪車があったり、ジョギングを楽しむ人や自転車とすれ違ったり…生活者の生活ぶりがそのまま伝わってくるのです。

再発見その2！【愛着】

また、精華町～奈良～生駒のこのあたりは非常に起伏が多いまちです。神戸や石切あたりほどのような勾配ではないのですが、それでも、徒歩や自転車での移動は少しつらいのです。このことが「まちを歩く」ことから遠ざけてきた原因のひとつになっていたのかも知れません。しかし、このような起伏がまちの景観に変化を与え、見る目を楽しませてくれています。また、適度な起伏があるからこそ、自然も残されているのでしょう。こう思うと、自ずとまちに愛着が湧くものです。

今回のウォーキングでは、学研北生駒駅から高架を歩いているはずが、白庭台駅では地下に入ってしまう…起伏の多いまちの形状がよく現れていると思うとも



なだらかに続く下り坂と沿道の斜面緑地

に、なんだか“だまし空間”ようで不思議な感じを受けました。

その線路は？【感動と期待】

さて、そのけいはんな線は、地下鉄と同じように、空中架線がなく、電力はレール間に設けられた高圧電流線から供給されるということです。そのせいもあってか、普段電車から見るより線路そのものが大きく見え(あるいは、前を歩く我が子が小さく見えた?)、正直、子供のように感動してしまいました。

「これが大阪、南港までつながっているのか」、「開通後、自分のまちはどう変わっていくのかな」そんなことを想像し、また、期待しながら、約15分間の“線路歩行”を楽しませていただきました。我が子の言葉を借りれば、まさに『電車になった気分』です。きっと電車ではあつという間の700mでしょう。しかし、この子供に返ったような“感動”と“期待”は、開通後も忘れないようにしたいものです。

あとがき

今回のイベントを通じ、ますます自分のまちが好きになりました。誇り・愛着・感動・期待(夢)、そんな様々な気持ちに乗せ、今、まさに“けいはんな発・まちブランド”が発車しようとしているのです。



開通前のけいはんな線を歩く



## きんきょう

### ● 所員の一言メッセージ～その2

はじめまして

**阿部 功 (名古屋)**

5月よりお世話になっております。愛知県森林公園ゴルフ場センターハウスの設計のお手伝いをしています。来年2月より着工ですが工事監理も担当させて頂く予定です。

まさかポルトガル語！？

**天池 さとみ (名古屋)**

姉が医療で青年海外協力隊に合格しました。試験は厳しく夢がなかったのです。一緒に英語の勉強してきましたが、派遣先はポルトガル語圏！只今我が家は、三カ国語です。

ブレイク・する？

**安藤 謙 (名古屋)**

まちの困りごとがない知恵を絞り、消えそうな山の技を本に等々。とその一方、仕事にもまちにも問題が山積みで、Breakthroughしよう！と一休み？ではないつもり。

適時に keep it simple, stupid

**岩元 健一 (名古屋)**

複雑な局面でごちゃごちゃ考えない。例えば固定観念に縛られず、昔からのやり方やいきさつにとらわれず、そう考えることから可能性が広がることも。物事は簡単に単純に

地域の仲人役に奮戦中です

**鈴木 正芳 (名古屋)**

公と民や地域住民と企業と大学などをお見合いさせて事業化を検討しています。第1弾の愛知県森林公園ゴルフ場PFIはセンターハウスの実施設計中です。

趣味を「仕事と子育て」に

**剣持 千歩 (名古屋)**

昨年出産し、4月から復帰しました。子どものためにも「社会を良くしたい！」という信念を持って業務に取り組んでいますが、両立は想像以上に厳しい・・・でも、負けません！

町は生き続けている

**尾関 利勝 (名古屋)**

20年ぶりに名古屋を景観調査でくまなく定点観測中です。新生児が成人になる様に、町は生き続けていることが分かります。引き続き町の未来に役立ちたいと願っています。

つくること／つなぐこと

**田中 祥文 (名古屋)**

都市開発や近代建築物の保存活用に取り組んでいます。様々なひとの思いに触れ、つなぎ、かたちにしていくこの仕事に面白さを感じています。

安全な住空間

**中嶋 秀介 (京都)**

夏以降、アスベストの使用実態調査が多くてねえ。その前は、耐震性能、ホルムアルデヒド、結露(カビ)……。今日も銭湯よって帰りましょ。

トンレサップは広い

**堀口 浩司 (大阪)**

9月にカンボジアに行きました。トンレサップという湖(琵琶湖の15倍)が感動的でした。雨期には乾期の3倍の大きさになり、森林と水産資源、農業がバランスを取っているさまは見事です。

いにしえ

古の塵塚を想い環境歴史学

**福岡 雅子 (大阪)**

賤しげなる物、居たるあたりに調度の多き。=略= 人にあひて詞の多き。願文に作善多く書き載せた。多くて見苦しからぬは、文車の文。塵塚の塵。(徒然草)

和願愛語と少欲知足

**福井 守 (名古屋)**

科学の進歩は、私たちの生活をそして幸福観を変えた。その過程で置き去りにしてきたものも計り知れない。そんなことを思いつつ、今日も和願愛語と少欲知足を胸に・・・。

40を前に惑う今日この頃

**三木 健治 (京都)**

40を前にして、体力の衰えを覚える今日この頃。一方、年々、膨らむ新たな世界への興味。どのように折り合いをつけようか？

権利変換計画はやっていますが

**山下 宏 (名古屋)**

エスカレーターは店の真ん中にあるのに、エレベーターはなんで端っこのの、と問われながら機関車トーマスのショッピングカートを押す休日です。

「継続は力なり」

**森岡 武 (大阪)**

一度絶滅したコウノトリがゲージから羽ばたこうととしています。私はとて言えば、体中の筋肉が贅肉の侵略を受けています。特に上半身は重力の餌食。ボディケアもまちづくりも汗をかく、自己代謝を高める筋肉づくりがテーマです。これって「継続は力なり」なんですよ。

「信頼できる町医者に」

山崎 博央 (京都)

建物におけるさまざまな不安—地震、シックハウス、アスベスト等々。悪質なリフォーム詐欺等が横行するこの世の中、今こそ信頼できる町医者が必要になっている。

新しい時代の住宅政策づくり

松尾 高志 (京都)

国の住宅政策が、大きく転換する中、新しい時代の県や市の住宅マスタープランづくりに取り組んでいます。今年度は、地方の時代の住宅施策のあるべき姿を模索します。

最近のことといえば・・・

吉田 久視子 (大阪)

本日記つけてます。限りがある本との出会いの中で、今この時期に、このタイミングで出会えた本に「偶然の意図」を感じ、得られる感覚を自分の中で浸透・意識化していきたい。

うまいもの通信



秋の味覚を「田ごと」で楽しむ

高倉うまいもん隊

【国産大豆「引き上げ湯葉」鍋】

今号より京の「ほんまにうまいもん」をお伝えする「高倉うまいもん隊」通信。第一弾は、京のメインストリート＝四条通から柳馬場を北へ少しだけ入ったところにあります「田ごと 名月庵」です。明治4年創業以来、100年以上もの間市民に親しまれている、四条・河原町の「京料理 田ごと」の姉妹店です。

名月庵の一押しメニューは「京湯葉五行膳」。加賀・山中の三代目佐竹辰五郎作の朱塗丸盆に配された京焼の五色の器（陰陽五行を表す）に盛られた四季折々の味覚。紅葉の季節ならば、鱈、かぶら、秋茄子、海老芋などが一品一品、丁寧に盛りつけられています。目で見て楽しみ、口にして楽しみ、と贅沢な味わいです。

五行膳の楽しみはこれだけではありません。江州（滋賀県）産の大豆でつくった豆乳に天然にがりを用いた「引き上げ湯葉」。京・錦の庖丁鍛冶「有次」が試行錯誤を重ねた特製の鍋と匙で食すそれは、手で楽しむ一品。



陰陽五行のいわれをかたどった「京湯葉五行膳」(4,200円)



“有次”特製鍋でつくる引き上げ湯葉。五行膳とセット

【絶品「鯖寿司」はお持ち帰りで】

テイクアウトメニューも充実しています。我々「高倉うまいもん隊」の一押しは、口にしたときのごはんと鯖、昆布と灰かなお酢の薫り。その絶妙なバランスが何ともいえない一品が「鯖寿司」。「正直、鯖はちょっと・・・」という私も、「これは旨い!!」と太鼓判。一度賞味することお奨めします。

この他、笹の香りがほのかに感じる「笹巻き寿司」、通常は八寸の演出に用いられる「手まり寿司」セットなども手軽にお持ち帰りできます。



テイクアウトもできる鯖寿司・笹寿司・手まり寿司

【本当においしいものをお気軽価格で】

お値段は、鯖寿司が1本3,150円、手まり寿司が9ヶ入り1,600円、笹巻き寿司5ヶ入り1,260円(全て税込)。

素材にこだわり、「おいしいものを、気軽に召し上がっていただきたい」という姿勢は、五代目となる堀部素久さんに引き継がれた田ごとの心意気です。



<田ごと名月庵>  
住所：京都市中京区四條柳馬場上ル 電話：075 (212) 8811  
営業時間：午前11時～午後9時  
URL: <http://www.kyoto-tagoto.co.jp/>



## 優れものの商業開発・名古屋港イタリア村

名古屋事務所／尾関 利勝

### 名古屋港にイタリア村が誕生

今年4月、名古屋港ガーデン埠頭東の倉庫を活用したPFIで名古屋港イタリア村が開業。全国でリゾート事業を展開する本社名古屋のセラヴィリゾート(株)が前年5月に名古屋港イタリア村(株)を設立して始めた事業です。「愛・地球博」の影で、少ない情報にも関わらず当初から大人気。休祭日は駐車待ちの車が長蛇の列をなし、博覧会終了後もこれとは無関係のように連日賑わい、開業後半年で250万人が入場しました。

### 本格的なフェスティバル・マーケット

イタリア村は国内各地にあります。ここはベネチアの町並みを基調に、全てをイタリアで統一した食・買う・見る・遊ぶ・集う機能を備え、物販48店、飲食13店、メルカト(食材市場)、美術館、日伊交流施設、結婚式場で構成される日本ではまだ希な本格的フェスティバル・マーケットです。イタリア人 Gondrieri が漕ぐ Gondola やイタリア人御者が操る馬車、路上ミュージシャン、港内クルージングがライトアップとともに昼夜の雰囲気盛り上げます。

### よくぞ集めたイタリア商品構成

飽きるほど同じような商業開発が何処でも多い中で、ここは独自のイタリア商品をふんだんに集めた本格的な観光商業開発です。店舗は一部の有名ブランドテナント以外、大半が直営店。イタリア村の開発コンセプトに基づき、社員が直接イタリアに出向き、日本では未紹介かつ代理店契約のないブランド、価格も手ごろな商品を仕入れていることが商業環境を楽しく豊かにしています。

体験者の反応は様々ですが、幅広い年代層の女性・カップル・ファミリー客を中心に支持され、リピート客も多いようです。

最近の商業開発の大半がテナント導入を主とするいわば不動産開発がベースであることにに対し、ここはPFI事業のもと、商品を集めることを基本にして出来たまさに本格的な商業開発であることが地域開発に関係する立場から見ても、ちょっと感動的です。是非、一見をおすすめします。(詳細は次号で)



保存活用した倉庫と運河の町並み



ベネチアから来たゴンドラ



サンマルコを模した町並み

## アルパック(株)地域計画建築研究所

<http://www.arpak.co.jp> E-mail [info@arpak.co.jp](mailto:info@arpak.co.jp)

本社

京都事務所 〒600-8007 京都市下京区四条通り高倉西入立売西町 82

大阪事務所 〒540-0001 大阪市中央区城見 1-4-70 住友生命 OBP プラザビル 15F

名古屋事務所 〒460-0003 名古屋市中区錦 1-19-24 名古屋第一ビル 8F

東京事務所 〒186-0001 東京都国立市北 1-1-17 田畑ビル 3F

九州事務所 (株)よかネット 〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町 3-8 福岡パールビル 8F

TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764

TEL(06)6942-5732 FAX(06)6941-7478

TEL(052)202-1411 FAX(052)220-3760

TEL(042)501-2531 FAX(042)501-3024 分室 / TEL(03)3226-9130

TEL(092)283-2121 FAX(092)283-2128